

おれんじ

NO.98

発行日 2025.11.8
発行・編集
土佐女子中学・高等学校
高知市追手筋2丁目3番1号
電話 875-3111 (代)

過去そして未来へ

中学教頭 藤田 浩之



いい言い訳をして、勉強から逃げていたのだと思います。

1989年4月。一浪の末、教育学部中学校教員養成課程理科専攻へ入学しました。理学部や農学部、化学系学科へ進学し教員免許も取得するつもりでした。浪人中に教員免許を取るなら教育について深く学んだほうが教員になったとき役立つだろうと思い、進路変更しました。いざ大学生活が始まると一般教養教育だけでなく専門教育でもマスプロ授業が多く、教育実践的な授業も無く、自分が思い描いていたものとは違っていました。結果、授業から足が遠のきアルバイトに精を出すようになり、授業の出席にも影響が開始しました。今思えば、周りの同級生たちはきちんとしていたので私個人の問題だったのでしょうか。理想とは違うなどと都合の

2回生の冬。卒業研究をするための研究室配属の話し合いが総勢30名で行われました。人気は化学、生物系で、私の希望も化学系でした。一方、地学はマイナー科目なのと、長期休暇中に一週間山中の施設に泊まり込む地質調査があるため不人気でした。しかし一番の不人気の理由は、陸軍幼年学校出身のとても厳しい教授がいたことでした。噂では、講義中にシャーペンをカチカチと音をさせただけで怒られるとか。私は絶対地学研究室だけは行きたくありませんでした。結局、配属の話し合いは調整がつかず、くじ引きとなりました。私のくじ番は『29』。くじを引いた瞬間、地学研究室配属が確定しました。この世の終わり。人生詰んだ。私はどくれました。研究室の歓迎会は欠席、新年度の履修登録はしましたが授業には出ず、下宿に引きこもり、大学を辞め

ることも考え始めていました。そんなとき同じ研究室に配属された同級生が心配して様子を見に来てくれました。同級生の説得に応じ、大学は辞めず、地学研究室に顔を出すことにしました。研究室の先輩は何も言わず受け入れてくれましたが、心の中では『とてもない奴が来た。』と思っていたことでしょう。思い返せばお恥ずかしい限りで、同級生や先輩方には迷惑をかけ、反省と同時に感謝しています。

不評の地質調査もやってみれば楽しく、活動を通して地学研究室の同級生との仲も深まりました。苦労して仕上げた地質分布マップもいい思い出です。また卒業研究は、火成岩中の金属の種類と割合を化学的に分析、研究している助教の指導を仰ぐことができ、大学で化学の研究をするという夢が叶った形となりました。この研究が面白く、大学院進学を考えた時期もありましたが、私が研究室に顔を出さなかったことが教授の逆鱗に触れていたこともあり、諦めました。自業自得です。

大学の卒業し、土佐女子に就職して3年目、初めてホーム主任を任せられることになりましたが、こんな私でしたから、当然うまくいきませんでした。当時の生徒たちには申し訳ない気持ちでいっぱいですが、うまくいかなかった原因は、生徒たちから信頼を得られなかったこともあるのではないかと思います。教員としてのスキルが身につけていなかったことは言うまでもないですが。また、生徒が反抗してくるときには理由がありません。教員にとって困った生徒は、困っている生徒なのです。当時の私はそこに気づかず、『あの生徒は態度が悪い。けしからん。』という他責思考で、信頼を得るための努力があまりできず、生徒と向き合うことも十分にできていなかったのではないかと思います。

現在、本校は未来へと歩みを進めていくうえで、乗り越えなければならぬ課題が山積しています。それらは一筋縄でいかないものや、すぐに答えが出ないものも多くあります。日本が抱える人口減少問題、とりわけ高知県でも急加速している少子化の波をどう乗り超えていくのか。土佐女子教育を発展させ、その魅力をどう発信していくのか。生徒たちが持っている力をどのように引き出していくのか。もう過去の自分の失敗を繰り返したくはありません。どんなことから逃げず、どくれば、本気で向き合っていきたいと思っています。そうすれば、きっと乗り越えていけると信じています。私独りの力は微々たるものですが、生徒たち、保護者の皆さま、卒業生の方々、教職員すなわち土佐女子ファミリーみんなで力を合わせ、一丸となって前へ進んでいきたいと強く思っています。



過去3年間の大学別合格者数一覧 (のべ数・年度は入試年度)

大 学 名		合格者数			大 学 名		合格者数			大 学 名		合格者数			大 学 名		合格者数		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度			令和4年度	令和5年度	令和6年度			令和4年度	令和5年度	令和6年度			令和4年度	令和5年度	令和6年度
国公立大	宇都宮大		2		私立大	桜美林大			1	私立大	大阪芸術大		2	1	私立大	倉敷芸術科学大		1	1
	大阪大	1				大妻女子大			1		1	就実大		1					
	神戸大			1		共立女子大			1			美作大		3					
	和歌山大		1			國學院大		1				環太平洋大				1			
	香川大			1		国士館大		1			1	安田女子大				1	2		
	愛媛大	1	2			駒澤大学		2	1		2	日本赤十字広島看護大					2		
	高知大	2	5	2		実践女子大		1				広島国際大				2			
	釧路公立大	4	8	10		芝浦工業大					1	私立大	四国大			1	4	2	
	旭川市立大			1		順天堂大					1		徳島文理大			6	11	3	
	東京都立大			1		上智大		1					四国学院大				1		
	都留文科大	3		1		昭和女子大		1					松山大				7	8	
	長野大			1		専修大		7	1		1	高知学園大				7	6	5	
	京都府立大		1	1		拓殖大		1				高知リハ専門職大				5	3	3	
	神戸市外大	1				玉川大					1	高知健康科学大					2	4	
芸術文化観光専門職大			2	多摩美大		1			西南学院大					1					
島根県立大		1	1	津田塾大				1	他			13	8	1					
高知工科大	6	4	2	東海大				1	計		158	212	189						
高知県立大	8	13	6	東京家政大		1	1		短大	自由が丘産能短大				1					
北九州市立大	1			東京家政学院大		1				嵯峨美術短大			1						
計	27	37	30	東京工科大		1		1		関西外大短大部		1							
私立大	医療創生大			1	東京農工大			1			大阪芸術大短大部		1	1					
	千葉商科大		1		東洋大		2	1		3	神戸教育短期大			1					
	獨協医科大			1	二松学舎大					1	川崎医療短大		1						
	和洋女子大			1	日本大		2				四国大短大部			1					
	明海大学	1			日本女子体育大		1				高知学園短大		13	11	11				
	目白大	1			日本体育大					1	計		17	14	12				
	神田外大	1			法政大		1	2		4									
	青山学院大	1		1	武蔵大				1										
	亜細亜大	1		1	武蔵野大				1										
									</										

R7.4 現在

進路指導部より

進路部部长 田村 弘

昨年度の全国有名中学校入試において、徳島大学山口裕之教授の著書『「みんな違ってみんないい」のか?―相対主義と普遍主義の問題(筑摩書房、2022年)』から複数の出題がされたという。

相対主義とは、人間の認識や評価はすべて相対的で、真理の絶対的な妥当性を認めない立場であり、価値観はその人や文化によって異なっている。優劣はないという考え方である。一方、普遍主義は個々よりも多くに共通する事柄を尊重する立場であり、何事にも客観的で正しい答えが存在するという考え方である。山口教授によると、どちらも唯一の正解ではなくバランスが必要であり、「正しさ」は他者が同意することで成立するとい

う。

人が知覚できる状況は限定的であり、限られた情報に基づいた感情を根拠に「正しさ」を導くことは困難であることが多い。しかしながら、近年個々の「感情の尊重」という風潮が顕著となっており、そこには危険性が潜んでいるとの指摘が続く。主観的な感情を基に各自が「正しさ」を決定することで、正義の名のもとに他者を一方的に攻撃するこ

とが可能となりうる。実際、何らかの過失があると判断した相手に対し、非難や攻撃を行うのは当然だと考える人たちが匿名で相手を誹謗中傷する行為が横行している。また、カスタマーハラスメントに関する報道や、一方的な主張が相手に受け入れられないという理由で暴力行為に発展したという話もよく耳にする。

かつての村社会的な窮屈さや過干渉から逃れて精神的な快適さをもたらされるよう、絶対的な存在やそれを支えるあらゆるシステムを積極的に破壊してきた。「時代の変化」という合言葉のもと、権威や常識、ルールやしきたりよりも個人の感情が重要視される時代が幕を開けた。会津「什(じゅう)の掟」の最後のフレーズとは対極に、自分が納得できないものはすべて間違っていると主張する人たちの活躍で社会の変化は止まらない。

より良い社会を目指しているはずが、国連の『世界幸福度報告2025年版』によると、日本の総合順位は55位であり、「寛容さ」の項目は130位、「人生選択の自由度」は79位であるという。

今春卒業した122回生は、北海道から九州まで全国各地の大学から合格通知を受け取り、難関私立大学への合格者数も大幅に伸ばした。各大学作成の個別試験では実力を発揮できなかったものの、『共通テスト利用入試』で合格する生徒もいて、幅広く受験機会を増やすことの重要性を再認識する入試となった。年内入試とも言われる『総合型・学校推薦型選抜』の受験者数は一貫して増加傾向であり、早期ゆえに準備不足のまま受験となるケースも散見され、長期的かつ計画的な取り組みが求められている。また、最終的に第一志望校に合格する生徒がおり、『一般選抜』まで諦めずに受験することの大切さを体現していた。

「タイプ」重視の時代といわれるものの、先の読めない流動性の高い時代においては、何が不要かを見極めることは難しい。まして、現時点だけでなく将来にわたって不要かどうか見極めることはより困難である。早い段階で人生における選択肢を減らさないように多様な科目の学習に取り組む、どのような選択肢を選んだとしても実現しうる基礎的な学力を身につける必要がある。また、基礎学力を涵養するために能動的な日々の学習習慣を身につける必要があることは言うまでもない。

ボストン留学



本校が今年から対象となった昭和ボストン高校生プログラムに、二名の生徒の参加がありました。夏休みの二週間をボストンにある昭和女子大学の海外キャンパスで学び、異文化体験もするという、たいへん有意義な体験ができたようです。

高二 片岡 瑞葉

大切にしました。

昭和女子大学との高大提携協定の一環として、昭和ボストンでの語学研修に参加できたことを嬉しく思います。英語は得意ではなかったため、研修前は不安もありました。しかし、現地では授業だけでなく日常生活でも積極的に英語を使う必要があり、研修中は常に挑戦する気持ちで

授業ではアメリカの政治や女性リーダーなど多岐にわたるテーマを扱い、意見を求められる場面も多くありました。最初は言葉に詰まることもありましたが、発表を重ねるうちに少しずつ自信がついていきました。

課外活動では町を散策し、歴史的建造物や美術館を訪れて多くの刺激を受けました。



また、スーパーや公園でボストンの人々の暮らしを身近に感じられたことも印象に残っています。

カフェでの注文や先生との会話で、自分の伝えたいことが確かに伝わったという実感を得られたことは大きな喜びであり、自らの成長を感じる瞬間でもありました。

この研修で得た積極性と挑戦する姿勢を、今後の学習や将来の進路に生かしていきたいと思っています。

高一 北本 結阿

ボストン到着後の一日目、家族と離れた土地にいるのだという感覚が、一気に押し寄せ、高知に帰りたいくらいありませんでした。参加者の多くが都会出身で、仲良さそうにおしゃべりをしているのを見て、私は友達ができない

ままプログラムを終えてしまつのではないかと、焦燥感と不安に押しつぶされそうになりました。

しかし、一緒に授業を受けたり、野外活動に参加したりするうちに友人もでき、寮にいた現地の人も連絡先を交換するほど親しくなることができました。

当時は毎日必死で気づきませんでした。振り返ると、かけがえのない体験をさせていただいたのだと改めて感じます。留学前後で精神的な強さには大きな変化があり、二週間の異国の地で過ごしたことが、自分の自信へとつながっています。

もし留学に行くか迷っているのなら、ぜひ勇気を出して挑戦してみてください。心配するよりも、得られるもののほうがずっと多いはずです。



祝 国スポ優勝

世界を目指して

井上 優奈

私は飛び込み競技を中学入学前からやっています。中学一年生で初めて全国中学校体育大会で優勝したときは、驚きと喜びでいっぱいでした。多くの人に、おめでとうと言ってもらえたことも、本当にうれしかったです。けれど、そこで満足せずに、努力を積み重ねてきました。そして今年、最後の全中で優勝し、三連覇六冠を達成することができました。

きました。もちろん、すごくうれしかったのですが、ここでも満足していません。なぜなら、世界で戦える実力を身に付けることが私の目標だからです。

優勝に満足しないこの考え方は、「自分を追い詰めている」「しんどい」と思う人もいるかもしれません。今、スポーツをやっている方、やっていない方々にも、日々辛いことがたくさんあると思います。私も、以前は飛込競技を続けることを辛いと感じることがよくありました。けれど、今、前向きに練習を積み重ねます。これが、今の私が一番大事にしている考え方です。

今回、国スポでも優勝することができ、まだまだ満足はしていませんが、次への自信につながりました。これらの結果は、決して私一人の力ではありません。指導してくださっているコーチ、応援してくれている家族、温かく見守ってくださっている先生

方、そして友達。周囲への感謝の気持ちを忘れず、世界で活躍できる選手になることを目指して、これから頑張っていきたいと思います。これからも、応援していただけるとうれしいです。よろしくお願いします。

最下位からのスタート

坂口 凜瑠

弓道には遠的競技と近的競技の二つがありますが、中高生の大会は近的競技がほとんどです。そのため、国スポの少年強化選手の推薦を頂くまで、私は遠的を一度もやったことがありませんでした。そんな私ですが、まだ引退したくない、弓道をやり足りないと思っていたため、「国スポやってみる？」と聞かれたとき、何の迷いもなく「やりたいです」と答えていました。

けれど、遠的を始めて一週間の私と、何か月も前から国スポを目指して遠的の練習をしている他校の選手との差は歴然でした。選考会の遠的競技で最下位となった私は、恥ずかしくてその場から逃げて帰りたい気持ちでした。そこへ、顧問の近藤先生が笑いながら近づいて来て、「こうなったら近的で一位を取って、

潔く去ろう」と言ってくれました。

先生の言葉で私の気持ちは一気に軽くなりました。「もう怖いものは何もない。こうなったら近的でぶちかまして爪痕を残して帰ろう」と、強い気持ちで近的に臨むことができました。その結果、近的一位を取ることで、私は「異例」という形で強化選手に選ばれました。

その日から、ほとんど毎日弓道場に通り、遠的を中心に練習をしました。同じ弓道ですが、まるで違うスポーツかと思うほど、遠的は難しいと感じました。その上、遠的が中り始めると近的が中らなくなる、それを何度も何度も繰り返しながら、少しずつ射技を身に

つけていきました。また、他校の選手と三人でチームを組むため、自分から積極的にコミュニケーションを図ることを心がけました。最初はぎこちなかった三人でしたが、同じ目標を持つ者同士、分かり合えることが多く、お互いの距離を縮めるのに時間はかかりませんでした。このようにして日々の練習や強化合宿をこなし、四国ブロックを一位通過して国スポに出場することができました。

国スポは私にとって、県代表という重み、今まで切磋琢磨してきた仲間の思い、そうした様々なものを背負って競い合う特別な場所でした。遠的優勝、近的準優勝という想像以上の成績を残せたことはとても嬉しく、誇りに思います。自分を信じて、仲間を信じて、今までの練習を信じて、一本一本集中して矢を射ることができました。一つ一つの小さな努力の積み重ねが、この結果につながったことが、自分の自信になりました。何より、国スポ挑戦を決めたあの日から、一度もあきらめなかったことが、勝因となつたと考えます。

ひとつ心残りがあるとすれば、雨天順延となったため、高校最後の運動会に出られなかったことです。けれど、国スポという貴重な経験をさせていただき、本当に感謝しています。たくさんの温かい応援、本当にありがとうございました。





令和七年十月八日(水)、秋の遠足が行われました。行き先は以下の通りでした。

- 中一 のいち動物公園
- 中二 久礼
- 中三 山北みかん狩り
- 高一 レオマワールド
- 高三 ゆとりすとパーク

おおよとよ

遠足



十月七日(火)から十一日(土)までの四泊五日、関東方面への修学旅行が実施されました。大きな病気や怪我もなく、全員揃って最後まで行程を終えることができました。学びと友情を深める、心に残る五日間となりました。

修学旅行「高二」



令和七年九月二十六日(金)、運動会が開催されました。雨のため一日順延での開催となりましたが、多くの保護者の方に観覧していただき、生徒たちも大いに盛り上がりました。今年は、青組の圧勝で終わりましたが、どの色もみんな笑顔で力一杯競技に参加していました。例年通り、最後は高三生によるよさこい大乱舞で盛り上がりました。

運動会



主な活動実績 (令和7年度)

<運動部>

卓球部

● インターハイ
【個人】シングルス 3回戦敗退 石川 実鈴
● 第56回全国中学校卓球大会
【団体】出場

バドミントン部

JOC ジュニアオリンピックカップ
● 第44回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
【個人】ジュニアの部ダブルス 1回戦敗退 森 千智・久武 那緒
【個人】ジュニアの部シングルス 1回戦敗退 森 千智
【個人】ジュニア新人の部シングルス 2回戦敗退 松本 楓音
【個人】ジュニア新人の部シングルス 2回戦敗退 北添 百葉
● インターハイ
【団体】2回戦敗退
【個人】ダブルス 1回戦敗退 瀧口 紗奈、安田 有純
【個人】ダブルス 2回戦敗退 西森 夕華、安岡 七瀬
【個人】シングルス 1回戦敗退 西森 夕華
【個人】シングルス 2回戦敗退 吳田 真央
● 令和7年度国民スポーツ大会バドミントン競技
【団体】2回戦敗退 西森 夕華、安岡 七瀬 吳田 真央

ソフトテニス

● インターハイ
【団体】出場
【個人】ダブルス 2回戦 瀬戸 佐友、西山 琉色 北原 涼葉、西内 玲花 山崎 真奈、水野 優羽

水泳部

● 令和7年度全国高等学校総合体育大会
【個人】女子50m自由形 出場 栗山 陽菜
女子100m平泳ぎ 出場 栗山 陽菜
● 令和7年度全国中学校体育大会 第65回全国中学校水泳競技大会
【個人】女子高飛び込み 第1位 井上 優奈
女子3m飛板飛込 第1位 井上 優奈
● 第79回国民スポーツ大会 水泳競技
【個人】少年女子高飛び込み 第1位 井上 優奈
少年女子3m飛板飛込 第1位 井上 優奈

空手道

● 第33回全国中学生空手道選手権大会
【団体】組手 出場 吉良 愛里、三谷 心虹

新体操

● インターハイ
【個人】30位 久野 杏莉

<文化部>

マンガサークル部

● 第34回全国高等学校漫画選手権大会 (まんが甲子園)
【団体】本選出場 市村 七海、武田 奈子 増田 実紘、中矢 詩以歌 田中 亜実

邦楽部

● 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文
【団体】日本音楽部門 出場

放送部

● 第72回NHK杯全国高校放送コンテスト
【個人】アナウンス部 出場 前田 玲

書道部

● 第22回安芸全国書展高校生大会
【個人】書道美術館賞 有光 由藍
● 第59回高野山読書大会
【個人】毎日新聞社賞 勝賀瀬 煌
【個人】毎日新聞社賞 勝賀瀬 颯
● 2025産経ジュニア書道コンクールB部門
【個人】奨励賞 勝賀瀬 煌
● 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文
書道部門 出場 勝賀瀬 煌

生物部

● 第49回全国高等学校総合文化祭 自然科学部門
【団体】ポスター発表 出場 三吉 心、刈谷 乙葉 田村 紗弓
【団体】化学分野 出場 近井 結子、國廣 愛花 斎藤 暖乃

コーラス部

● 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文
【団体】合唱部門 出場

